

乳・幼児造形研究部会

「乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のこと」の共有 — 実践事例発表「10のこと」項目⑥～⑩とシンポジウムを受けての協議 —

For Sharing of “10 Understandings from Art Infants and Young Children” :
Discussion from Practical case presentation and following the symposium.

塩見知利 丁子かおる 宮野周
SHIOMI Tomotoshi CHOJI Kaoru MIYANO Amane
大谷大学 和歌山大学 文教大学
OHTANI University WAKAYAMA University BUNKYO University

1. 2022年度第2回（3月）案内

3月の部会は、前回に続き、本部会で作成した「乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のこと」（以下、10のこと）の項目6～10について実際の事例発表を基に理解を共有し、その後、協議を行う。発表予定者と「10のこと」の項目担当（キーワード）は、栗山誠（関西学院大学）項目⑥（自分をつくる）、宇津木七実（関西女子短期大学）項目⑦（ことばと発話）、照沼晃子（関東学院大学）項目⑧（認められ、思いを知る）、宮野周（自己と世界の橋渡し）、平田智久（十文字学園女子大学名誉教授）項目⑩（世界を理解）。また、学会シンポジウムの協議を受けての意見交換も予定している。

2. 2022年度第1回部会報告

1) 概要

第1回の部会は、1月28日（土）15:00-17:00にリモートにて、保育者、養成校教員など部会員13名で開催した。進行は宮野で、（1）代表の塩見より挨拶があり、（2）3月に本部会主催で開催するシンポジウムの説明と案内（栗山誠）、（3）「10のこと」の活用紹介などの報告（宮野・丁子）、（4）『教育美術』2021年10月号no.952以降に連載された「10のこと」の事例を基に①～⑤の項目を発表し、協議を行った。

（5）塩見より閉会の挨拶。

2) 発表内容と協議について

① 丁子かおる（素材と関わる）

1歳の砂場遊びと水遊び、2歳のかんなくずの遊び、新聞紙の遊びの場面から、素材にじっくりと関わることで育まれる資質・能力、保育者や友達とのつながりを紹介した。

② 伊藤智里（中国学園大学）（感性）

上からみた花の綺麗さに気付く感性、みかんなどを触ろうとする真剣な眼差し等、乳児から幼児が自然や身近にある素材に感性を働かせる姿と、大人からの影響が述べられた。

③ 海沼恭史（認定こども園 建福寺幼稚園） (情動・主体性)

絵の具に慣れない4歳のK児を遊びに誘い、足に絵の具がついたことから、次第に遊びに入り、友達と一緒に真似っこして遊ぶようになり、緊張がとけて安心して生活するようになった事例の説明、主体性を育む絵の具という素材の魅力が提案された。

④ 塩見知利（大谷大学）（問題解決）

紙コップの構成遊びから、積み上げたり崩したり見立てたりする様子から、失敗してもやり直せ、できないときは友達が手伝ってくれる造形の良さについて提案された。また、造形場面では楽観性は保育者にも子どもにも大切であることが述べられた。また、大学生による3Dマッピングの実践発表がされた。

⑤ 伊藤裕子（谷戸幼稚園）（想像と創造）

ヨーグルトの容器がカバンになったごっこ遊びのから、見立て、友達とイメージを合わせ、モノがイメージをつなぎ、帽子と靴をつくり警察ごっこで憧れのものになるなど経験したことを表し、憧れの自分や知識をつくりだす造形遊びの事例が紹介され、遊びの中での想像が創造を支えていることが述べられた。

3) 第1回の参加者からの意見

10ことを使って子ども理解や見かたを具体的な出来事・姿で伝えることや保育現場との共有の必要性、失敗経験をさせたがらない授業・保育への課題等の意見があった。